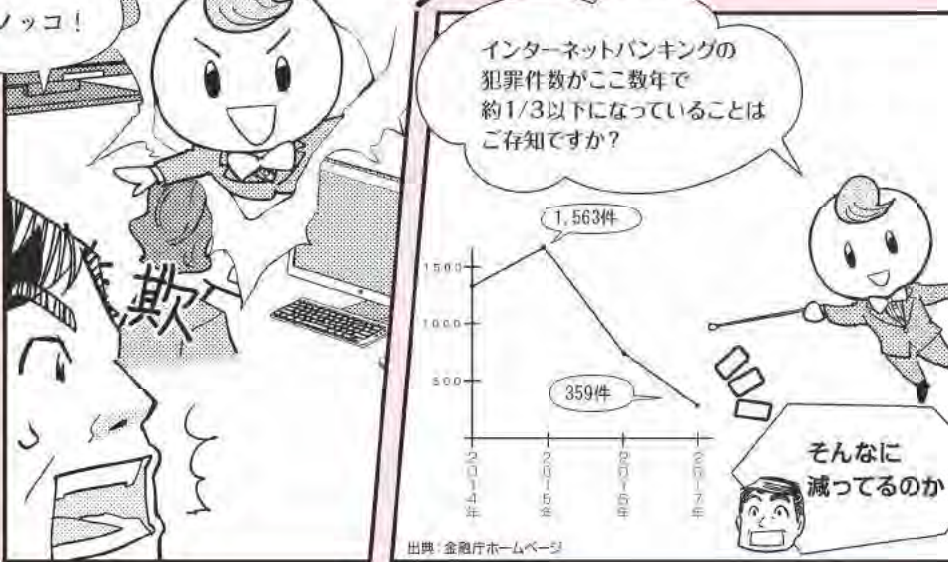


簡単・安全なセキュリティ対策

今すぐセキュリティ対策を!



序章

第1章

第2章

終章



主なリスクを知り、適切なセキュリティ対策を行えば安心!



「インターネットなどでの支払いはちょっと心配…」そんな方もいらっしゃるかもしれません。しかし、近年では金融機関や管理者のセキュリティ対策が進み、国も対策に力を入れており、犯罪被害も大幅に減っています。

●減少する金融犯罪

電子納付で気になる「インターネットバンキングによる預金等の不正払い戻し」については大幅な減少傾向にあります。

■犯罪件数推移 (単位:件)

| | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 |
|--------------|--------|--------|--------|--------|
| 偽造キャッシュカード | 304 | 383 | 303 | 340 |
| 盗難キャッシュカード | 3,080 | 2,919 | 3,887 | 9,968 |
| 盗難通帳 | 101 | 88 | 57 | 52 |
| インターネットバンキング | 1,410 | 1,563 | 763 | 359 |

出典:金融庁ホームページ「偽造キャッシュカード等による被害発生等の状況について」(2018年6月15日・2018年9月21日発表)

■補償率 (単位:%)

| | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 |
|--------------|--------|--------|--------|--------|
| 偽造キャッシュカード | 96.3 | 98.6 | 98.3 | 98.3 |
| 盗難キャッシュカード | 38.5 | 45.8 | 47.0 | 57.1 |
| 盗難通帳 | 62.9 | 36.0 | 66.7 | 55.0 |
| インターネットバンキング | 84.0 | 84.6 | 84.5 | 78.8 |

出典:金融庁ホームページ「偽造キャッシュカード等による被害発生等の状況について」(2018年6月15日・2018年9月21日発表)

※補償率は金融機関が処理方針を決定した被害数のうち、被害金額の全額または一部を補償した件数の割合です。

例えばインターネットバンキングの犯罪件数はここ数年で約1/3以下に! 年々減少しています。



万一、被害に遭ってしまった場合には、お客さまの責任割合に応じて、銀行から補償を受けられます。



●金融犯罪事例とセキュリティ対策

インターネットを利用した主な金融犯罪の事例とセキュリティ対策の方法をご紹介します。

事例1 ウィルス感染

利用者がウィルスに感染しているパソコンから金融機関やサービス提供者のホームページにログインすると、偽のポップアップ画面や「ダウンロード中」などの偽画面を表示し、IDやパスワードなどの重要情報を不正に取得したり、不正に預金を引き出したりします。



対策 ウィルスソフトの完備／アップデート

- ✓ ウィルス対策ソフトを使用し、常にアップデートして最新の状態を保つ。
- ✓ 信頼の置けないウェブサイトからプログラムをダウンロードしない。

事例2 フィッシングメール(偽Eメール)

偽のメールを送るなどして巧みに偽のホームページ(ネットバンキングの模倣画面)へと誘導し、乱数表やパスワードなどの情報を入力させて盗み取り、預金を不正に引き出します。



対策 開封しない／ワンタイムパスワードの活用

- ✓ 不審なサイトへのアクセスや不審なメールの開封は行わない。
- ✓ 預金の振込・送金やお客さま情報の変更以外ではパスワードを入力しない。

●「ワンタイムパスワード」とは

一度限り有効な「使い捨て」パスワードのこと。一度限りのパスワードなので犯人に盗み取られても預金を不正に送金されるリスクは低くなります。万一、パスワードを盗まれるようなことがあっても再利用による不正な取引をされないことがないため、非常に信頼度の高いセキュリティ対策です。



金融犯罪の手口と対策を理解して、安全に使うことが大切だね!



